法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

纏まりー集合住宅における共有空間の再検討ー

塩島, 康弘 / SHIOJIMA, Yasuhiro

(発行年 / Year)
2009-03-24
(学位授与年月日 / Date of Granted)
2009-03-24
(学位名 / Degree Name)
修士(工学)
(学位授与機関 / Degree Grantor)
法政大学 (Hosei University)

P307.5
M35-2
2008-27

纏

まMATOMARI
り集合住宅における共有空間の再検討

法政大学大学院 修士２年 渡辺真理研究室所属 07r5322 塩島康弘
主査：渡辺真理教授
副査：富永譲教授
永瀬克己教授

INDEX

CHAPTER 0: 序論

はじめに
研究目的
研究方法

CHAPTER 1-1: 集合住宅における共有空間とは、どんな空間で、どうあるべきか？

事例研究：case1
SQUARES/ 屯Ⅱ / 領域構成の段階性と出来事 / 共有空間の空間形状

事例研究：case2
熊本県営保田窪第一団地 / 領域構成のヒエラルキーと関係性

CHAPTER 1-2: セルに分節される空間。つなぐ手法

事例研究：case3
梅林の家 /TEM/ 空間を分けること　空間を繋ぐこと

事例研究：case4
矩形の森 /T house/ ワンルーム空間の分節手法

事例研究：case5
八ヶ岳の別荘 /N-House/ 包含関係の空間

CHAPTER 1-3: 分節される空間と配列について

事例研究：case6
代田の町屋 / 南湖の家 / 散田の共同住宅 /projectNAS

事例研究：case7
コモンシティ星田 / 分節化による秩序

事例研究：case8
熊本市営託麻団地 / 幕張ベイタウン・パティオス 4 番街

CHAPTER 2 設計

設計要旨
敷地 (東京都府中市) について
全体平面図　S:1/500
部分平面図　S:1/200
部分平面図　S:1/200
立面図　S:1/500 S:1/200
断面図　S:1/500 S:1/200
模型写真

CHAPTER 3-1: 参考文献

CHAPTER 3-2: 謝辞

CHAPTER 0: 序論

はじめに
現代の匿名化社会の中で果たして共有スペースは、求められているものなのか、居住する際に他人と共有スペースを持ちたいと考えているだろうか？私に関して言えば家=『社会とは分離された完全な個人のスペース』であってほしいと思っています。他人に見られながら生活するのも、家を一歩出てはすぐに他人との関わりを持のも、そうあってほしいとは考えられない。
しかし修士設計に取り組むに当たって、ある経験を振り返りました。
私は幼少の頃、公団分譲住宅地に住んでいたことがあります。東京都八王子市南大沢にある低層の公団の集合住宅地です。そこでは、家に帰ると、同じ棟に住んでいる母の友達と母が雑談をしていたり、夕飯時には、お裾分けのカレーや煮物を頂いたり、さらには、合鍵を下の階の家においているような、生活環境がありました。日曜日には、近くの公園のテニスコートで毎週会合が開かれたり、一緒に外食をしにいったりもしました。私や兄弟の学校というコミュニティのつながりによっての関係も勿論ありましたが、同じ階に住んでいるだけ、同じ棟に住んでいるだけというつながりだけでも形成することのできたつながりもそこにはありました。今では頻度は低くなったものの、母はその時の友人とは連絡を取り合い、関係は継続されています。そこに住んだことによって生まれた関係、つながりがいまでも残っています。
それは今振り返ると、とても素晴らしく、有意義なものであったと感じました。それをきっかけに、完全に閉じた完全なる個人のスペースとして家を考えるのではなく、そんな人と人のつながりをもし、共有スペースによって少しでも誘発できるのならばとても意味があることなのではないかと考え、今回の集合住宅における共有空間の再検討という修士設計に取り組むことにしました。

研究目的・研究方法
現代社会において、共有スペースはどのような場であるべきなのか？ということをまず確認していくことを第一の目的とし、事例研究を行いその場の形態、関係性などの理解をしていきたいと思います。そして現代における集合住宅の新たな共有スペースの場を検討することを目的とします。

CHAPTER 1-1: 集合住宅における共有空間とは、どんな空間で、どうあるべきか？

事例研究：case1
SQUARES/ 屯Ⅱ / 領域構成の段階性と出来事 / 共有空間の空間形状

事例研究：case2
熊本県営保田窪第一団地 / 領域構成のヒエラルキーと関係性

CHAPTER 1-2: セルに分節される空間。つなぐ手法

事例研究：case3
梅林の家 /TEM/ 空間を分けること　空間を繋ぐこと

事例研究：case4
矩形の森 /T house/ ワンルーム空間の分節手法

事例研究：case5
八ヶ岳の別荘 /N-House/ 包含関係の空間

CHAPTER 1-3: 分節される空間と配列について

事例研究：case6
代田の町屋 / 南湖の家 / 散田の共同住宅 /projectNAS

事例研究：case7
コモンシティ星田 / 分節化による秩序

事例研究：case8
熊本市営託麻団地 / 幕張ベイタウン・パティオス 4 番街

1: 集合住宅における共有空間とは、どんな空間で、どうあるべきか？

事例研究：case1
SQUARES/ 屯Ⅱ / 領域構成の段階性と出来事 / 共有空間の空間形状

事例研究：case2
熊本県営保田窪第一団地 / 領域構成のヒエラルキーと関係性

参考文献：『設計資料集成 - 居住』日本建築学会 /『パタン・ランゲージ』C. アレグザンダー

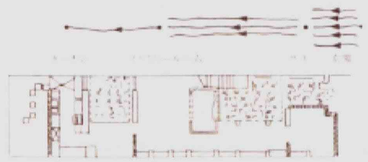
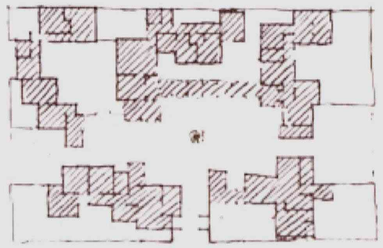


図 1. プライバシーの勾配 (『建築設計資料集成』より引用)



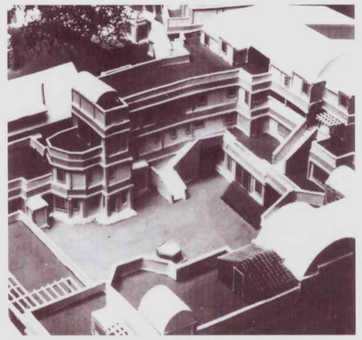


図 2. クラスター (『パタンランゲージ』C. アレグザンダーより引用)

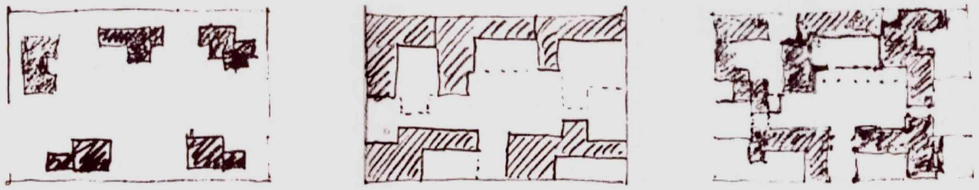


図 3. クラスターの形成と正と負の空間 (『パタンランゲージ』C. アレグザンダーより引用)

■プライバシーの勾配

プライバシーは、状況により様々に変わる概念である。住宅を例にすると個人のプライバシーも家族のプライバシーもある。故にただ個室を用意するのではプライバシーを確保できるとはいえない。また公園にぽつんと佇むのもプライベートな状況で、空間的な囲みを必ずしも必要とはしない。アルトマンによると、プライバシーは「個人やグループへのアクセスの選択的なコントロールである」という。つまり情報や社会的な関係のやりくりを意味する。ウェスティンは、このプライバシーのあり方を「孤独」「親密」「匿名」「留保」の 4 つに分けて説明した。「孤独」は一般に考えるようなプライバシーで、例えば個室に一人でいることで、他から見られないような状況「親密」はグループのプライバシーを意味し、恋人たちが他人に邪魔されずに二人でいるような状況「匿名」は雑踏の中に一人でいて、他の人からじろじろと見られたりせず、交渉がない状況「留保」は他人に秘密を知られないように、コミュニケーションを制限している状況プライバシーは場面に依存するもので、住宅などでは場所が移るにつれて、公的な性格から私的な性格へとプライバシーが段階的に変化する場合がある。これをプライバシーの勾配という。アレグザンダーによる集合住宅の計画案では異なる性格の空間を公から私へと順に並べている。(『建築設計資料集成』日本建築学会、『パタンランゲージ』クリストファーアレグザンダー参考)

■クラスターと共有地

道路に沿って抽象的な『グリッド状』に並ぶ住宅群という姿に替えて、私たちはより個性的で新しい家並みの型を提案する。それは共有地に対する直接的で効果的なコントロールを人々の手に戻し、建設中だけでなくそれ以後もずっと、自然で人間的な生産の単位となるものである。この家並みの型をクラスターと呼ぶ。『クラスター』とは共有地を共同で管理し分かち合う、住宅のグループのことであり、人々が具体的な共通の目的を持ったり、共に協力し合ったりできるような社会組織の基本単位である。家族は共有地との関係を手がかりに、個々の住宅の配置を自分たちで決定できるだけの力を手に入れる。『クラスター』の大きさは居住者が共有地と関係づけて自らの住宅配置を決めていく力があるのなら、共同で使う共有地に対してわずか二軒でも十分である。
また大きな場合でも住宅に住む人々が街区の土地を実質的に所有し、そこに対する権限と、そこと彼ら個々の住宅との関係を確立する力を持っていれば、街区全体が一つのクラスターになることも可能である。クラスターはまずその中心にある共有地によって意味づけられ、個々の家族とこの共有地との豊かな関係によって決定される実体のある社会構造である。
(『パタンランゲージ』C. アレグザンダーより引用)

■正の空間と負の空間

空間を「正 (ポジティブ)」「負 (ネガティブ)」に分けると、ゲシュタルト心理学でいう図と地ができる。しかしそのときの地は、そこに目を向ければすぐに図に転換しなければならない。空間も独立してそこだけ見たときに常に正の空間でなければならない。(『パタン・ランゲージ』C. アレグザンダー 正の屋外空間より引用)

事例研究：case1

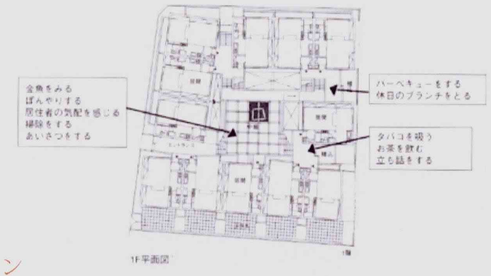
SQUARES/ 屯Ⅱ / 領域構成の段階性と出来事 / 共有空間の空間形状

『SQUARES』所在地：東京都中野区 / 設計者：谷内田章夫 (ワークショップ)/ 完成年：1995 年 / 敷地面積：880.65 ㎡ 建蔽率 /：59.5%/ 容積率：143.2%/ 住戸数：29 戸 『屯Ⅱ』所在地：埼玉県草加市 / 設計者：大野正博 (DON 工房)/ 完成年：1996 年 / 敷地面積：403 ㎡ / 建蔽率 /：49.9%/ 容積率：88.3%/ 住戸数：6 戸

参考文献：『現代集合住宅のデザイン』：彰国社 /『日本の現代住宅』TOTO 出版 /『変わる家族と変わる住まい』彰国社 /『設計資料集成 - 居住』日本建築学会

■1: アプローチ動線と共有空間

都心の住宅地に立つ中庭を囲んで 4 つのブロックが向かい合った、賃貸集合住宅である。各住戸へは中 2 階の高さにある中庭を通って住戸への階段でアクセスする。居間が中庭側に配置され、収納や設備部は 1 箇所にまとめられていることで、大開口のワンルームがとれている。
空間は、中庭や屋上など豊かな共有空間をもつ。アプローチ動線を兼ねた共有空間は、隣近所とのつきあいを敬遠しがちな居住者間やときには地域の人との自然発生的な交流を生んでいる。その結果、居心地の良さや帰属感につながる。



■2: コモンを通過することとコミュニケーション

敷地外から各住戸に直接アクセスする、のではなく、コモンを通って住戸にアクセスする
(社会 - コモン - 家族) となっている。コモンを通る動線は、居住者の日常的な生活行為が重なり、外出や帰宅時に頻繁に他の居住者と出会う機会を増やす。一般的にはエンドスペース (終着点) としてなりがちな私領域 (住居) が共と公領域の両方に接続することで、集住コミュニティへの帰属を選択可能なものになっている。

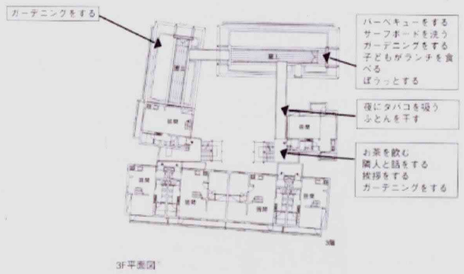
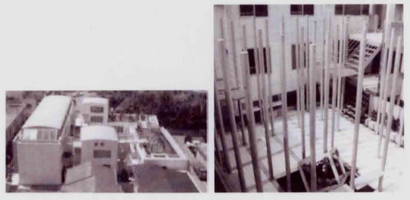


図 1: 領域構成

■3: 生活行為を誘発する仕掛け

「SQUARES」: 中庭だけでなくさまざまなコモンがある。各コモンには日常の生活行為の表出を誘発する池やベンチやテーブルや椅子、水道などが儲けられている。従来の住戸内の生活行為がコモンでみられる。動線として通過するだけでなく滞在する行為、食事をとる、子供が遊ぶ、など、リラックスしたきどらない住戸の延長としての生活空間であることが伺われ、居住後の評価につながっている。「屯Ⅱ」(次ページ事例研究)
ベンチや菜園があり、近所の人の荷物も合わせて分配や、中庭で子供を遊ばせる傍ら、大人がベンチに座り会話をしている光景がみられる。



■4: コモンでの生活行為

1 屋上
2 水道 / 植栽 / プランター
3 子供と遊ぶ / ぼんやりする / くつろぐ / バーベキュー / パーティー / サーフボードを洗う / ガーデニング / 子供がランチを食べる
1 中庭
2 池 / ベンチ / ポール
3 あいさつ / 立ち話 / 金魚を眺める / ひなたぼっこ / ぼんやりする / 掃除 / 外出や帰宅時に通過する
1 住戸玄関前アルコーブ
2 テーブル / いす
3 あいさつ / 立ち話 / ブランチをとる / ビールを飲む / 新聞を読む / 茶を飲む / タバコを吸う

1 階段
2 なし
3 あいさつ / 布団を干す

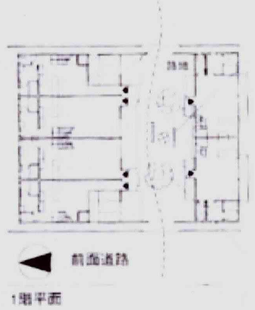
1 通路
2 テーブル (一部)
3 あいさつ / バーベキュー / 休日のブランチ / タバコを吸う /

4 安らぎ / 動線 / 気配を感じる / 安心を得る / 帰属感 / 生活空間 / 視線によるセキュリティ

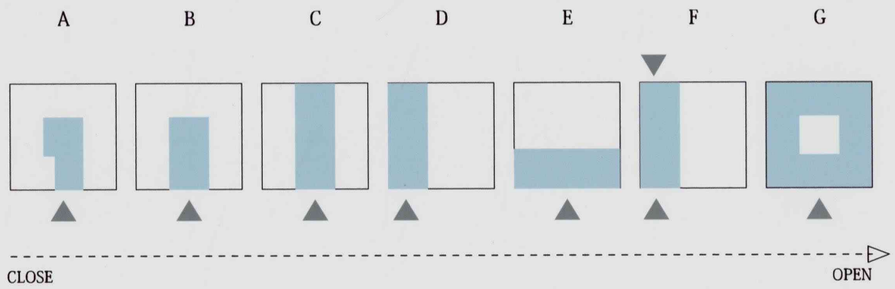
1 中庭
2 ベンチ / 植木 / ポール / 菜園 (小)
3 あいさつ / 生協の荷物を分配 / タバコ吸う / 子供が遊ぶ (居住者、近所)/ ぼんやりする / 井戸端会議をする / 新聞を読む / 菓子、茶を飲む / 水道検針の人がジュースを飲む / 洗車、自転車を置く / 菜園の手入れ / 外出、帰宅時に通過する / 近所の人が散歩する / 近所の高齢者がぼっとする / 友人がビールを飲む
4 家事育児の協力 / 子供の遊びを誘発する / 気配を感じる / 動線 / 安心感 / 視線によるセキュリティ

■5 コモンを挟んで向かい合う住戸 (空間形状)

空間形状は「SQUARES」は囲み型、「屯Ⅱ」は通り抜け型となっており、どちらも中庭を挟んで住戸が向かい合う配置とされている。向かい合う配置は、各住戸から中庭の様子が分かるだけでなく、中庭を通して住宅全体、ポールや植栽の奥にある住戸の気配を感じることができる。中庭から気配が伝わることで、視線のセキュリティが働き安心感が得られる。「屯Ⅱ」ではお互いの様子を察知し、気配りやベランダ越しの会話など交流が生まれている。
このように、中庭を住宅の中心に配し中庭に面した開口部をもつことで、居住者同士はこの住空間を共有している関係であることを認識でき、共有意識や帰属感を培っている。



■6: 空間形状



■7: コモン開放意識の類型

		人	時間
AB: 居間型…	招かれたとき、招かれた人のみ	制約あり	制約あり
CD: クラブ型…	決められた人、何時でも開かれている	制約あり	制約無し
EF: ロビー型…	許されたとき誰にでも開かれている	制約無し	制約あり
G: 公園型…	いつでも誰にでも開かれている	制約無し	制約無し

事例研究：case2

熊本県営保田窪第一団地 / 領域構成のヒエラルキーと関係性

所在地：熊本市帯山 / 設計者：山本理顕 / 完成年：1991 年 / 敷地面積：11,184 ㎡
建蔽率 / ：31.8%/ 容積率：78.2%/ 住戸数：110 戸

参考文献：『現代集合住宅のデザイン』：彰国社 /『日本の現代住宅』TOTO 出版 /『変わる家族と変わる住まい』彰国社 /『設計資料集成 - 居住』日本建築学会

■1: 空間構成の再編

定型化した集合住宅のカタチを乗り越え、共に住むことの本質的意味や固有性を問い直すことを目指して、空間配置の強い図式性によって集合の形式と住戸のありようを提案している。

領域構成ヒエラルキー　公 (地域)- 共 (コモン) 私 (住戸)

▼

公 (地域)- 私 (住戸)- 共 (コモン)

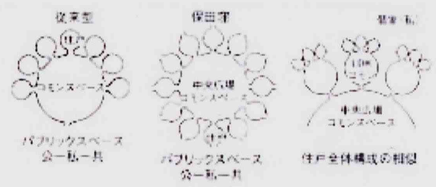


図 1: 領域構成

■2: 共有スペース (コモン) への参加の選択性

一般的にはエンドスペース (終着点) としてなりがちな私領域 (住居) が共と公領域の両方に接続することで、集住コミュニティへの帰属を選択可能なものになっている。

■3: 共空間に対して持つ帰属性

集合化の個性と成立基盤を共有空間に求め、囲み型の住棟配置となり、共空間と公空間を分離している。共空間は、住戸からのみアクセス可能なエンドスペースとし、その利用を居住者に限定することで、共領域の性格を明確にし、安定性・帰属性を高めている。

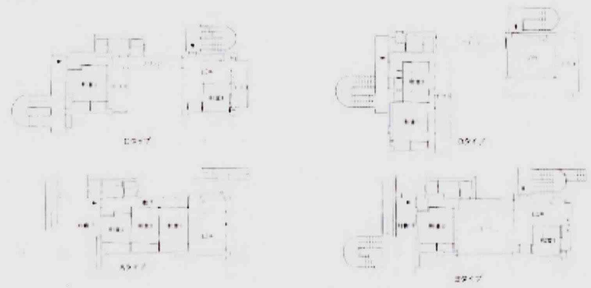
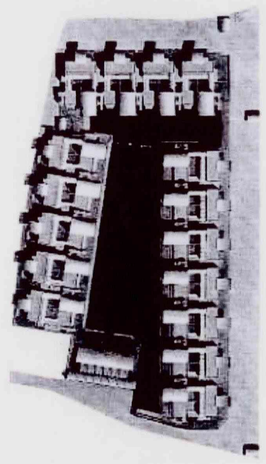


図 2: 住戸ユニット (コート吹き抜けによる分離が特徴的である)



■4: 選択性がもたらした公共性との孤立

中高年世帯からしてみれば芝生と植栽だけの設えや住戸へのアクセス経路からの分離された位置などから、中庭利用への『手がかり』が希薄である。また、周囲から隔絶され、目の届きやすい安心感は反面、監視されているような緊張感がある。見る - 見られるの関係性が一般のコモンスペースのそれより距離がない。

■5: メディアとなる中庭

各住戸の LDK が開放的に対面することで、暮らしが中庭側に凝集し、他者の視線に曝される。中庭は、視線・意識や生活の気配を媒介する「メディア」の役割を果す。生活の凝集性と「見る - 見られる」関係の強さは、他者の人となりや暮らしぶりの認知、集住景観や活気の享受、出来事の共有、安心感や一体感の醸成、自然監視など多様な気持ちや気配の伝え合いを生み共に住むことにポジティブな意味を与えている。

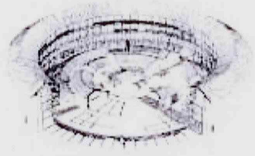


図 3: 承啓楼 (客家・土楼)
漢民族が中国南方に移住した際、周辺に対して抵抗・防御と一族の団結心を高め、伝来の文化を保持するために作った大家族用の集合住宅

2: セルに分節される空間。つなぐ手法。

事例研究：case3
梅林の家 /TEM/ 空間を分けること　空間を繋ぐこと
事例研究：case4
矩形の森 /T house/ ワンルーム空間の分節手法
事例研究：case5
八ヶ岳の別荘 /N-House/ 包含関係の空間

参考文献：『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会 /『ルイス・カーン研究』前田忠直 /『日本の現代住宅』TOTO 出版

図 1. 左 / セル (cell)　右 / ルームの図式 (『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

図 2. 左 / 外を囲う ダイアグラム　右 / 川原寺、法隆寺 (『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

図 3. 左 / 内なる囲い　右 / アトリウム空間 (『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

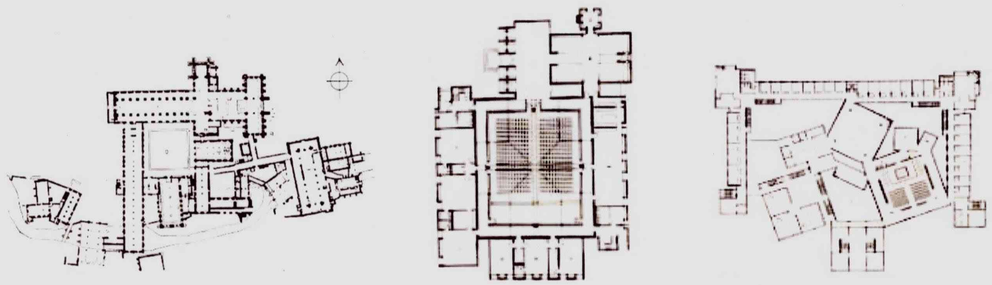


図 3. 部屋の統合体、統合の囲い (左からファウンテンズ修道院、ユニテリアン教会、ドミニコ会女子修道院)(『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

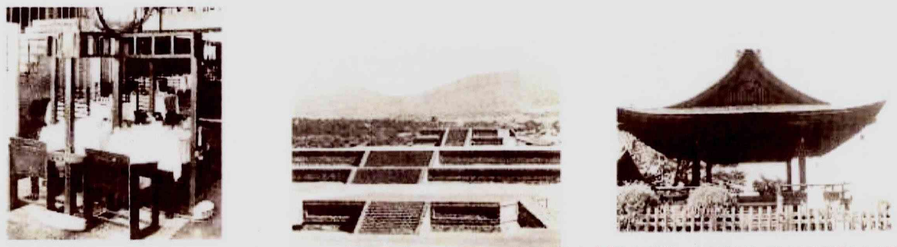


図 4. 分節方法 (左からチャールズ・レイニー・マッキントッシュの家具、ティオティワカン、三井寺月見台)(『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

■セル・ルーム・輪郭・空間の基本構造

建築は部屋をつくることから始まる。
平面図は部屋の共同体であり、住み、働き、学ぶための良き場所である。

私が包まれている。私とともに、もう一人の人がいる。私とその人のつながりを示す中心がある。空間を囲う囲いには、開口部がある。開口部から入る光が、内部空間を作り上げるとともに、そこから見える外の自然の景色が、空間がさらに外に広がり続く存在であることを示しています。
(『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

「ルームは、『世界の中の世界 (a world within a world)』として、外の世界から隔離され、しかしながら、あるいはそれゆえに、外の世界に接合するという両義的性格を持つ。ルームの窓は両者をつなぐ。ルームは窓を持つモナドと言える。」
(『ルイス・カーン研究』前田忠直『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

■空間の関係を規定すること

私の世界とは常に区切られ、囲われたものである必要がある。外と内を切断するものだと捉えず、囲いは、切るだけでなく、同時につなぐものでもあるわけです。何故なら囲いとは、関係を規定するものだからです。空間は必ず開口部を持った囲いによって囲われるのです。そしてあるものに対して開かれ、あるものに対して閉じられるものです。(『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

■輪郭を定める囲い

空間を覆う屋根、支える床も空間を規定するという広い意味においては囲いと理解される。地面をわずかに高く築き上げ床とするだけでも、それは空間と規定することになります。それは大地に定着しつつ空間を限定する、最も初源的なものといえる。
空間を囲む最もなものは『壁』である。常に空間を限定し、内部と外部を切り、あるいはまたつなぐという概念と結びついています。壁は常に保護、あるいは安全を人に与えるものでもあります。(『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会より引用)

■部屋の集合体と相互関係

建築は部屋の集合体です。ルイス・カーンは
『建築とは、部屋の社会のことだ』
と言いました。部屋それぞれの個性とそれら相互関係のことです。それぞれ違った個性を持つ個人が集まって、社会というまとまりを作るように、部屋は集まって、一つの建築というまとまりをつくるものでなくてはならない。
部屋が集まる意味が見出されれば、その集合体は必ず。一つの輪郭、すなわち囲いと中心を持つセル構造を獲得するはずです。その時その部屋の集合体は、単に集まっているだけでなく、一つに統合され単なる集合体ではなく統合体、共同体となりえるかもしれない。

事例研究：case3

梅林の家 /TEM/ 空間を分けること　空間を繋ぐこと

梅林の家 / 所在地：東京都 / 設計者：妹島和世 / 敷地面積：92 ㎡ / 家族形態：夫婦＋子供２人
TEM/ 所在地：東京都台東区 / 設計者：ヨコミゾマコト /98.52 ㎡ /3 戸の集合住宅

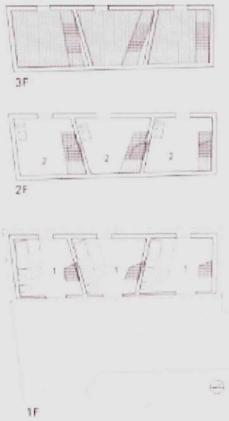
参考文献：『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会 /『ルイス・カーン研究』前田忠直 /『日本の現代住宅』TOTO 出版

■身体から都市へ (『日本の現代住宅』時間の中の住宅より引用)

空間はいかにしてつくることができるのか。その可能性を『地形』という言葉と『都市』に見い出したいと考えている。『地形』とは、空間を地形のようにつくりたいということ。子供の頃に空き地で遊んだように、その場所の地形をさまざまに解釈しながら遊びを開発していくことのできるような空間、その地形を使いこなしていくことで獲得できる身体感覚が、先の楽しさに繋がるのではないかということだ。日本の都市は、ほとんどすべて、戸建て住宅や集合住宅、オフィスビルなどが混在するという極めて特殊な様相を呈している。日本において住宅を作ることと同値なのである。住宅が都市性を内包したものとしてではなく、具体的な都市空間といかなる回路をもちうるのかということが課題である。『梅林の家』は、その意味で象徴的だ。小さく分割された部屋は、その使い方をいったん無効にしても使い方を喚起していくような、いわば『地形』的な空間としての強さを持っている。部屋相互の間に介在する強い視覚的関係性は、そのまま等価なかたちで都市空間へと接続され、視覚的体験に常に動き回る身体が伴う
。

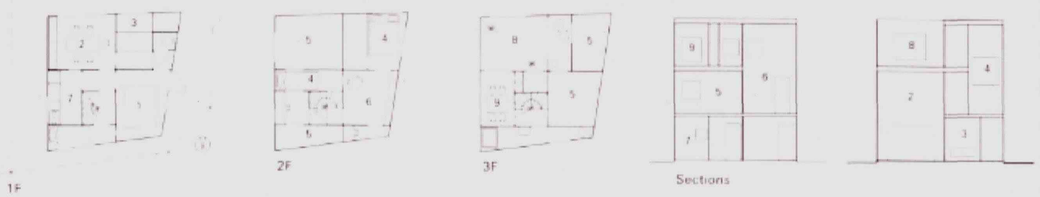
■積層する空間をつなぎ上げる光。

路地奥の敷地に建つ集合住宅。三階建てに３戸のワンルーム。各階に１戸ではなく、垂直方向に分割した「縦型のワンルーム」である。屋根全体は透過性をもった二重膜で覆われている。その拡散光は、グレーチングの三階の床や階段、白い２階床などを経由して下階へと導き縦型のワンルームを繋ぎ合わせている。



■小さく分割し、部屋をつくること

敷地のほぼ中央にボリュームを抑えた鉄板の箱が、梅の気に取り囲まれるように置かれている。求められたのは三世代五人家族がワンルームのように繋がった空間に住まうこと。大きな空間をポンと設えるのではなく、小さい部屋を連続させることで、体験としてのワンルームが実現した。これが成立するには 16mm の壁が不可欠だった。壁は、厚さがある程度以下になり、小口が消え始めると、全く別のモノに変貌する。その薄くて枠も扉もなく、ガラスも嵌められていない開口部に切り取られる隣接する部屋の風景は、絵画や写真、あるいは映画のワンシーンのように映ずる。部屋は家族の人数に比べて多く設けられ、人の動きの自由度も高められた。外部に面した窓から開口部を通して内部全体に風が流れこむ。外や内部の風景も飛び込んでくる。誰かの声が聞こえ、さらに動作も伝わってくる。



事例研究：case4

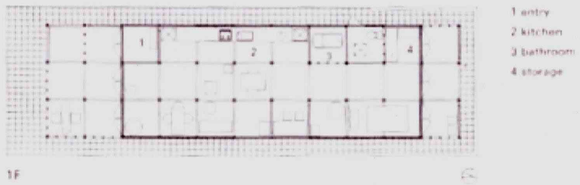
矩形の森 /T house/ ワンルーム空間の分節手法

矩形の森 / 所在地：北海道 / 設計者：五十嵐淳 / 敷地面積：166 ㎡ / 家族形態：夫婦
T-house/ 所在地：神奈川県 / 設計者：北山恒 /39 ㎡ / 二人

参考文献：『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会 /『ルイス・カーン研究』前田忠直 /『日本の現代住宅』TOTO 出版

■1: 一室空間の分節方法 / グリッド角

間口 3 間で奥行き 11 間の平面が 33 個の 1 間角グリッドに均等に分割され、その交点に 10cm 角の柱が立てられた。住宅の構成要素はすべてこのグリッドに従っている。南北のサービスヤードや風除室に挟まれたグリッドが居住空間となる。西側に沿って玄関、台所、浴室、収納、などの固定された機能エリアが並ぶ。寝室、リビング、ダイニングと緩やかに配列された一室空間として構成されている。



■1: 一室空間の分節方法 / 壁と領域

放射状に設置された壁によって緩やかに区切られた連続するワンルーム。片面を白、片面を柱現しの素地仕上げされた合板の壁は領域を切り取る。不規則な角度は近いようで遠い、開きつつも窄まる、離れたようで繋がっている、そんな住まう領域交互の関係性をもたせる。視点のシフトによって発現した無限に距離感を変化させる空間。

事例研究：case5

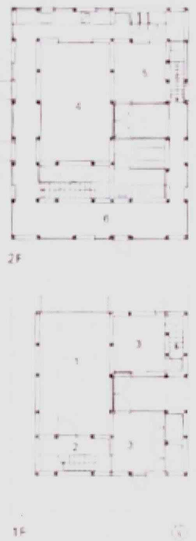
八ヶ岳の別荘 /N-House/ 包含関係の空間

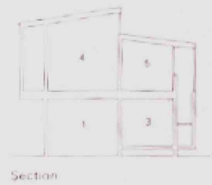
所在地：東京都中野区 / 設計者：谷内田章夫 (ワークショップ)/ 完成年：1995 年 / 敷地面積：880.65 ㎡
建蔽率 / ：59.5%/ 容積率：143.2%/ 住戸数：29 戸

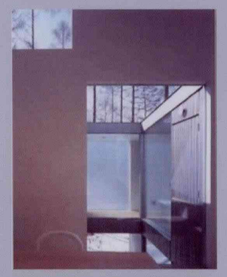
参考文献：『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会 /『ルイス・カーン研究』前田忠直 /『日本の現代住宅』TOTO 出版

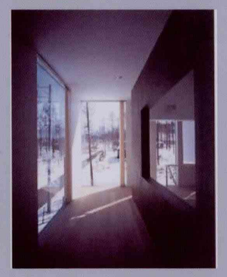
■1: 包含関係 / 二重膜

八ヶ岳の寒冷な環境を踏まえ、大きな一室空間ではなく、独立した部屋をコンパクトに集中させ、それらを回廊が取り囲むとう構成。各スペースや、開口部は巧妙に配置され、回廊は 900 ～ 1800 と幅を変化させる。回廊は南のキッチンで通過が拒まれ、西側では階段で立ち切られていて「巡ることができない」。大小さまざまな開口は、内部外部のシーンを一重、二重に切り取る。そこには「見えるが、すぐに行けない」というもどかしさの仕掛けがされている。視覚的な空間把握と身体的な空間体験のズレがある。構築される身体と、場の関係性。



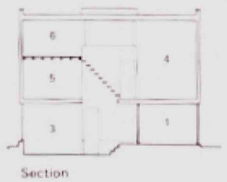


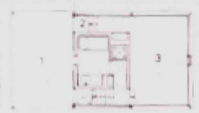


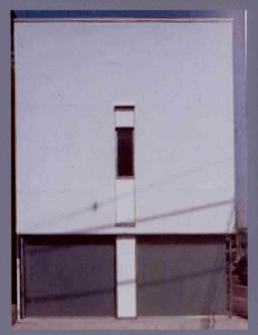


■1: 包含関係 / ボックス・イン・ボックス

わずか 16 坪のローコスト小住宅である。将来ギャラリー化できる空間と小さなティーバルコニーが欲しいという希望から、足元を開放しつつ外部空間を内包するプログラムが誘導されている。水回りの設備を中央コアに集めて杭をなくし、その頂部を小さなバルコニーとする案が選択された。単純に見えるキューブの内部は、カーポートの高さで決められたピロティの寸法をそのままバルコニーの高さ寸法へと転位させるなど、身体スケールに合わせたさまざまな空間ボリュームが用意されている。開口部は最小限に抑えられ、バルコニーのハイサイドから入った光は階段室から下層に導かれる。



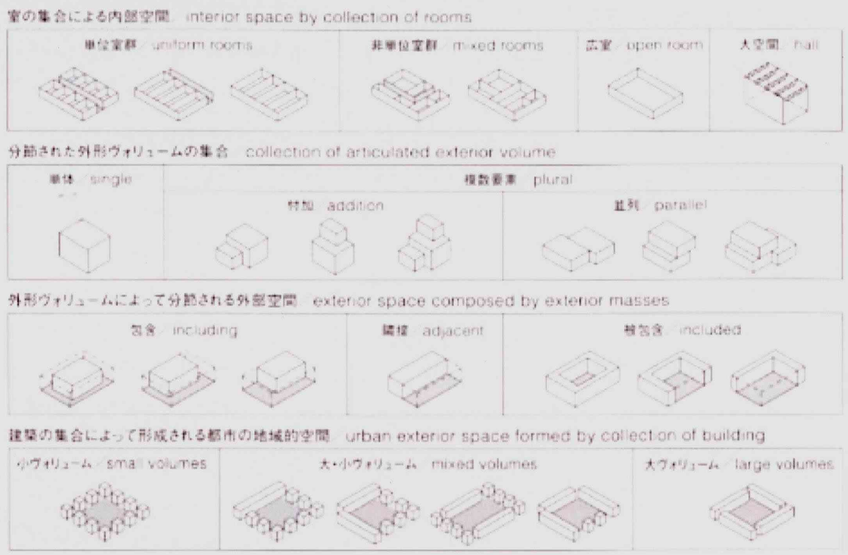


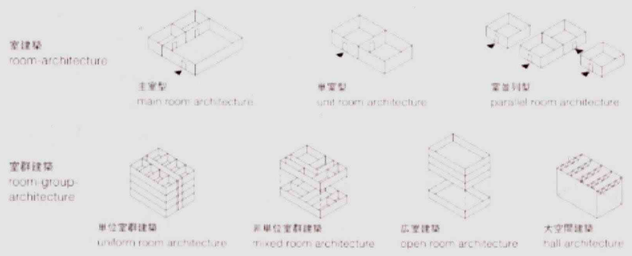


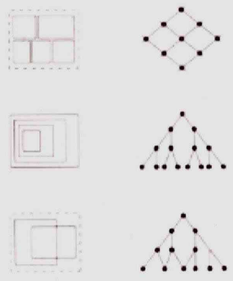
3: 分節される空間と配列について

事例研究：case6
代田の町屋 / 南湖の家 / 散田の共同住宅 /projectNAS
事例研究：case7
コモンシティ星田 / 分節化による秩序
事例研究：case8
熊本市営託麻団地 / 幕張ベイタウン・パティオス４番街

参考文献：『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版 / 『houses』坂本一成：新建築社







■空間としての場の継続する空間

部分の連鎖による継続して連続する空間。どこに何があり、それらがどのように接続され、いかなる関係をもつかを示し、その世界ないしその世界の構成・構造を表現する空間、そしてまたそれらの一望的な場景の広がりの空間であり、また通過することで経験され連続的に展開する空間である。均質に連続するのではなく、多くの違いを持ったさまざまな場所を経過することでつなぎとめられる空間とも言える。
こうした構成がつくる空間は均質で一様な空間をドミナント (主調) にするわけでなく、部分が全体に対し分節され、それらが結ばれ広がる空間で、全体が一様でなく、部分を持つ、あるいは部分化することで全体性を放棄した空間であり、開放系の空間といえると思われる。物事を特定な方向にまとめていく統合的な空間でなく、それぞれの場が重なり合いながら移行する、あるいは曖昧化して有機的あるいは併置・併存的となる空間である。

■建築的単位の選択 (組合せ) と配列法 (結びつき)

部分を内包する建築の空間は、一つの部屋のような室内部で分節される空間的な場の集合によって形成される、内部空間だけではない。個々の部屋である室の集合を包含する建築全体の内部空間、あるいは建物の分節された外形ボリュームの集合である建築の外形、さらにその外形ボリュームによって分節される外部空間、そして建物、工作物や空地が集合することでヴォイドとマス (ヴォリューム) によって形成される地域や都市の空間、また逆に建物内外を形成する部位・部材の構成による関係による空間もある。こうした空間はすべて部分をなすものと、それらの配置によって連鎖をなした集合の構成といえる。
どの空間もそれを形成する部分である単位にかかわり、そしてその集合の仕方にかかわる。空間配列はその空間の単位選択が問題となる。

■室の選択による空間構成

集合化した小規模室、平面的に広い室、規模的に大きな大空間室といった室の大小、規模の違いで、こうした室の違いの組合せ、つまり室配列の選択の組合せと通過道線の有無が建物の空間的性格を形成すると捉える。

室建築…ワンルーム空間のような一室空間をもつ
主室型…一室にいくつかの室が付属することで主室が通過動線をもつ。
単室型…主室をもたず規模的に等価な室が並列化し、主室をもっても通過動線とならない。
室並列型…各室に外部から直接至る、通過動線をもたない。
室群建築…多くの室の集合による建物。
単位室群建築…等価な規模の室の繰り返しによる建築。
非単位室群建築…さまざまな大きさの室が集まった形式の建築。
広室、大空間建築…平面的に広い室をもつ、大空間をもつ建築。

■配列法による空間構造

空間配列は、いかなる単位が想定され、いかなる選択・組合せで成立しているかという範列的内容とともに、部位・部分それぞれがいかに結ばれるかという、関係の取り合い方による統辞的な空間を形成する。すなわち部分である単位が他の部分である単位といかなる位相的関係を形成するか、ということからの纏まりの修辞といえる。

隣接関係…併存的・並列的。ラティス状の網目的関係。
包含関係…階層的。ツリー状の一義的、一方的 (機能的) 関係

部分重複・重合関係…相互依存的。セミラティス状の有機的関係。

事例研究：case6

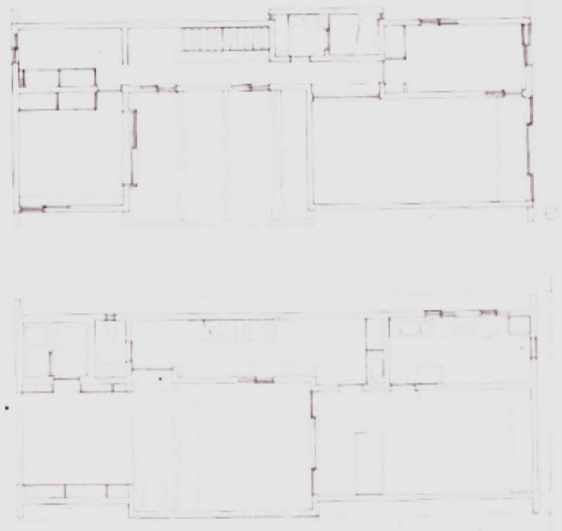
代田の町屋 / 南湖の家 / 散田の共同住宅 /projectNAS

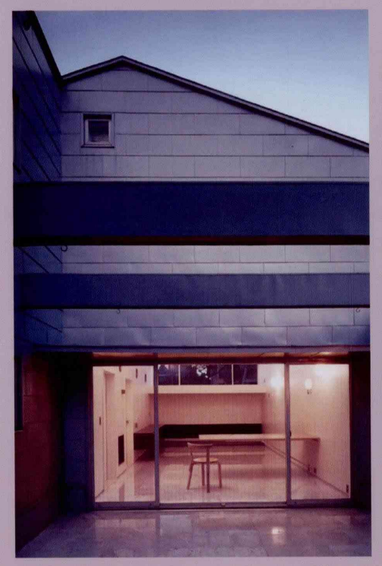
代田の町屋 / 所在地：東京都世田谷区 / 完成年：1976 年 / 敷地面積：132 ㎡
南湖の家 / 所在地：神奈川県茅ヶ崎市 / 完成年：1978 年 / 敷地面積：131 ㎡
散田の共同住宅 / 所在地：東京都八王子市 / 完成年：1980 年 / 敷地面積：227 ㎡
projectNAS/(塚本由晴、柳沢力、蜂屋景二、石黒由紀、貝島桃代、ヘルムート・ハンレ協力)
所在地：栃木県大田原市及び西那須野町 / 完成年：1980 年 / 敷地面積：227 ㎡

参考文献：『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版 / 『houses』坂本一成：新建築社

■1: 代田の町屋

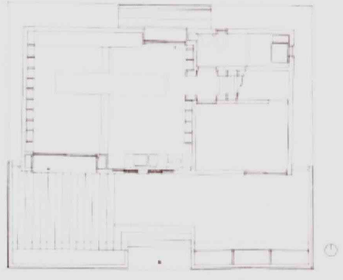
ボックス・イン・ボックスの包含関係による完結した空間を相対化し、主室、室、間室、外室といった隣接関係による室配列に基づいて実現した住宅。建物全体を統合する家型 (妻面を表現) の例。視線、動線が建物を貫通することによる『閉じた箱』の開放化へ路線変更した。

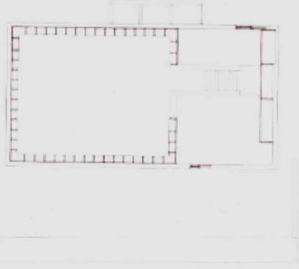


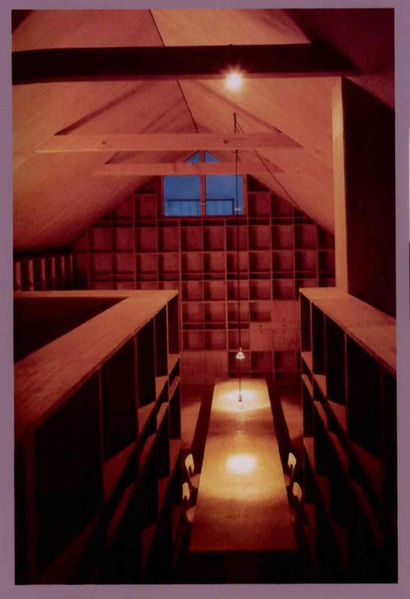


■2: 南湖の家

典型的なボックス・イン・ボックスのワンルーム構成。切妻屋根の家型に建築部材、構成材、そして家具などの配列、仕上げ (床、壁、天井そして棚などの建築化された家具すべてラワンベニアを使っている) などが強く秩序化して統合された空間を形成した作品。外部スペースの積極的な外室化を伴っている。







1: アプローチ動線を兼ねるコモン
2: 住人の出会う機会と自然発生的コミュニケーション
3: 閉鎖的コモンが生む住人同士の緊張感
4: 気配の漏れ出し

代田の町屋 / 南湖の家 / 散田の共同住宅 /projectNAS

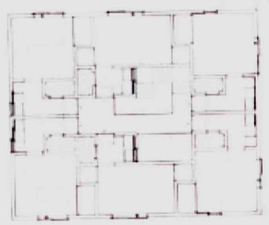
代田の町屋 / 所在地：東京都世田谷区 / 完成年：1976 年 / 敷地面積：132 ㎡
南湖の家 / 所在地：神奈川県茅ヶ崎市 / 完成年：1978 年 / 敷地面積：131 ㎡
散田の共同住宅 / 所在地：東京都八王子市 / 完成年：1980 年 / 敷地面積：227 ㎡
projectNAS/(塚本由晴、柳沢力、蜂屋景二、石黒由紀、貝島桃代、ヘルムート・ハンレ協力)
所在地：栃木県大田原市及び西那須野町 / 完成年：1980 年 / 敷地面積：227 ㎡

参考文献：『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版 / 『houses』坂本一成：新建築社

■3: 散田の共同住宅

家型の構成による 10 戸の小規模共同住宅。4 個の切妻の家型のボリュームに囲まれ、動線が集中した中庭である外室に全体が統合されている。形態の操作による構成が顕著である。

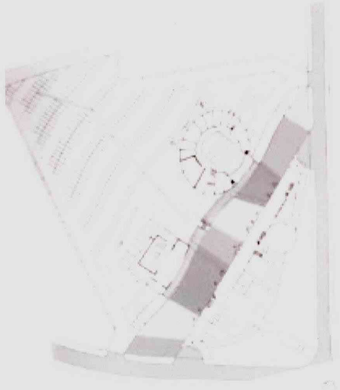
1 階平面図 1F plan S=1:300



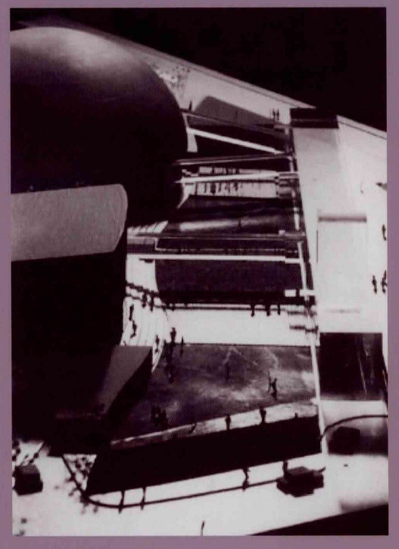
2 階平面図 2F plan

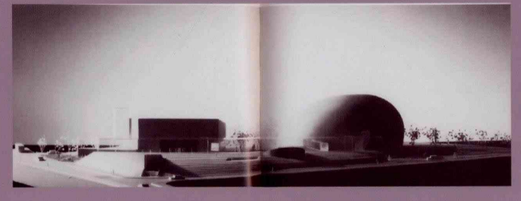
■4:projectNAS

那須野が原ハーモニーホール設計競技応募案。田園地帯の２つの地域の境界部にあたる場所に計画された三つのホール、アートギャラリー、共通ロビーなど主たる機能とした、２つの自治体の共同文化施設。両自治体をつなぐ対角線上の都市公園とその北の桜の森の駐車場、南の芝生の丘の三つの領域のランドスケープに単純なボリュームのホールや長い直方体のアートギャラリー、共通のロビーがネットワーク化して配置されている。



配平面図 1F plan S=1:3500





事例研究：case7

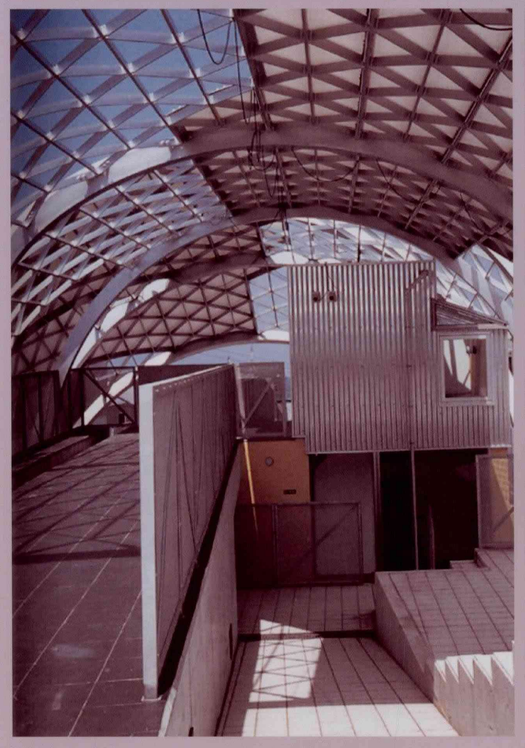
コモンシティ星田 / 分節化による秩序

所在地：東京都中野区 / 設計者：谷内田章夫 (ワークショップ)/ 完成年：1995 年 / 敷地面積：880.65 ㎡
建蔽率 / ：59.5%/ 容積率：143.2%/ 住戸数：29 戸

参考文献：『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版 /『houses』坂本一成：新建築社

■分節の仕方と、統合のあり方による空間の形式

2.6ha の北傾斜面に散在された 112 戸の住宅と集会施設の集合。雛壇造成でないスロープ造成や建物の配置法による外部空間の連続性と開放性によって、住戸からまちまで滑らかに連続した空間を形成する。道路割を前提とした宅他によるまちでない建物自体を散在させることによるまちである。中央を対角線状に横断してまちの外側に直接連続している中央緑道を中心とし、それに枝分かれする複数の緑道、外部からこの緑道に噛み合う状態で配置された通路、またその位置で両者に接して連続する住戸、さらにこれらに沿いながらこのまち全体に流れる水路、これらが等高線に沿いながらあるいはそれに対立して配置される構造をもち、成立している。完結的で単純な構成ではなくフラクタル的な複雑で細やかな分節をもってできている。空間は断片的で迷路的な空間になっているようにもとれるが、多くの建物の間隙からや、カーポートの空洞からは、向こう側の建物、景色が二重、三重に重なって見え、ドミナントとして透過性の空間を見い出せるかもしれない。建物の部位が様々な関係をとりあうことでの分節化による秩序が形成されているとも見るこてができる。建物での分節で端的なものは、覆いによって内部外部に分けること、そして内部を間仕切ることで形成される空間の分節である。コモンシティ星田では 112 戸の住戸は、いわゆる集合住宅として一つにまとめたボリュームを形成せず、住戸ごとを分節の単位としている。(『住宅 - 日常の詩学』坂本一成より参考)



1: アプローチ動線を兼ねるコモン
2: 住人の出会う機会と自然発生的コミュニケーション
3: 閉鎖的コモンが生む住人同士の緊張感
4: 気配の漏れ出し

事例研究：case8

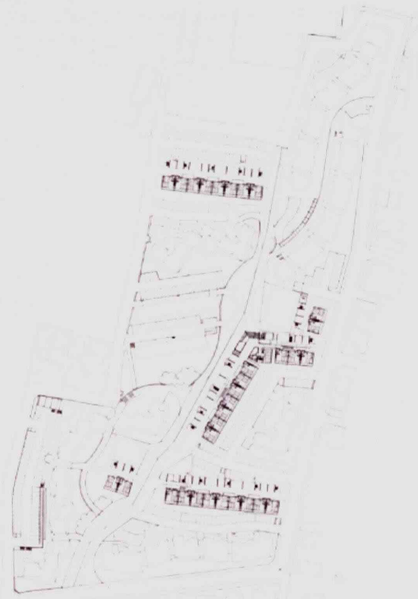
熊本市営託麻団地 / 幕張ベイタウン・パティオス 4 番街

熊本市営託麻団地 (長谷川逸子、松永安光協力) / 所在地：熊本県熊本市 / 完成年：1992 年 / 敷地面積：35873 ㎡
幕張ベイタウン・パティオス 4 番街 (塚本由晴、小川次郎、中井邦夫、浅枝千種、寺内美紀子、三村大介、黒田潤三)
/ 所在地：千葉県美浜市 / 完成年：1978 年 / 敷地面積：131 ㎡

参考文献：『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版 / 『houses』坂本一成：新建築社

■6：熊本市営託麻団地

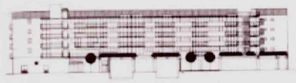
地域と連続した空間を形成する住棟配置、及び既存建物や他の設計者による建物との共存による空間的・時間的連続性の形成。住棟内に引き込まれた縦断通路によるコモンスペースの排除によってもたらされた、住戸全体のパブリックスペースへの接触性、及び地上面の開放による外部空間への連続性がある。



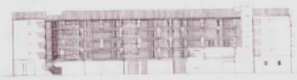
全体配置図 site plan S=1：2500

■4: 幕張ベイタウン・パティオス 4 番街

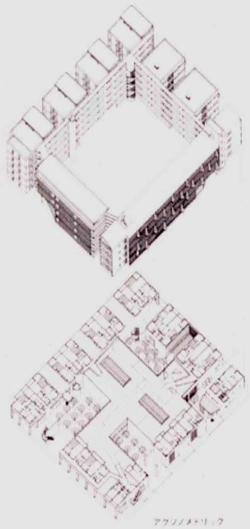
住棟によって囲まれ、人工地盤化された 2 階の屋上庭園である中庭が統合する集合住宅。この中庭である外部空間と四方の街路から住棟に貫通する外部空間とが重合関係をなすことで街まで連続する空間、さらにこの事で住戸は両面でパブリックスペースに面することになる。



断面図 section



北立面図 north elevation S=1：1500



アクソノメトリック
axonometric

1: アプローチ動線を兼ねるコモン
2: 住人の出会う機会と自然発生的コミュニケーション
3: 閉鎖的コモンが生む住人同士の緊張感
4: 気配の漏れ出し

CHAPTER 2: 設計

設計要旨

敷地 (東京都府中市) について

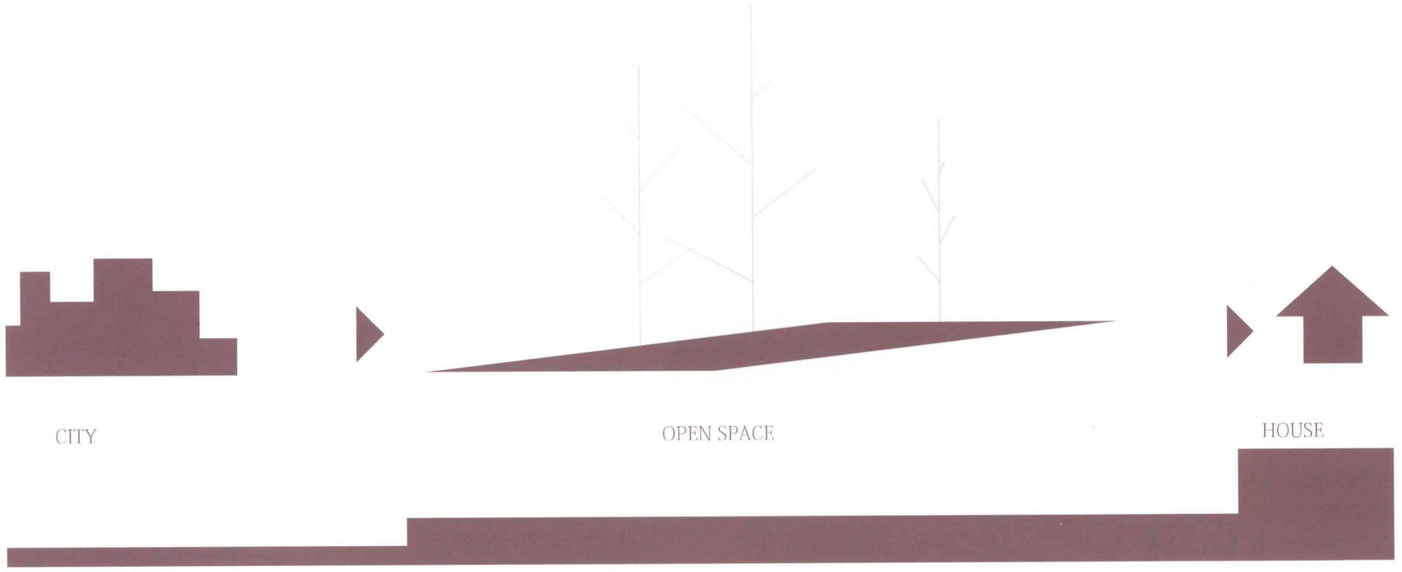
全体平面図　S:1/500

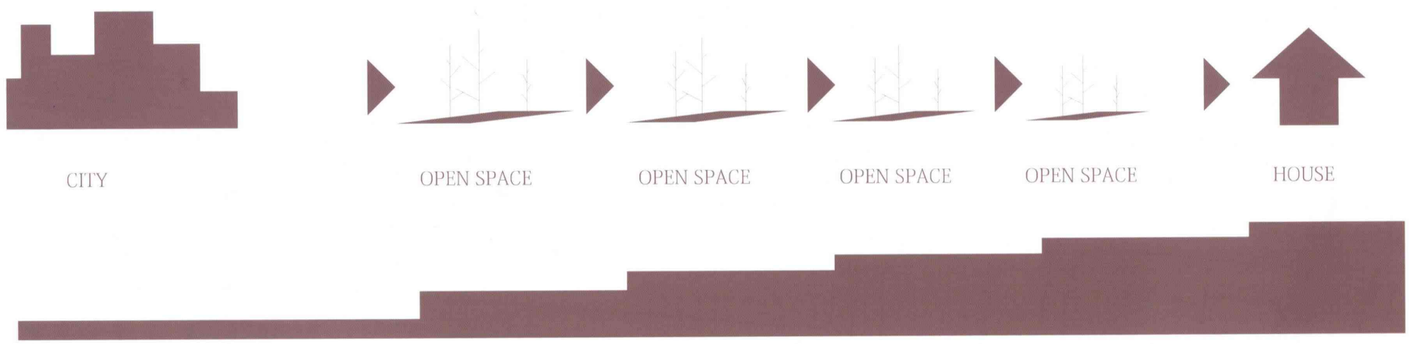
部分平面図　S:1/200

立面図　S:1/500 S:1/200

断面図　S:1/500 S:1/200

模型写真



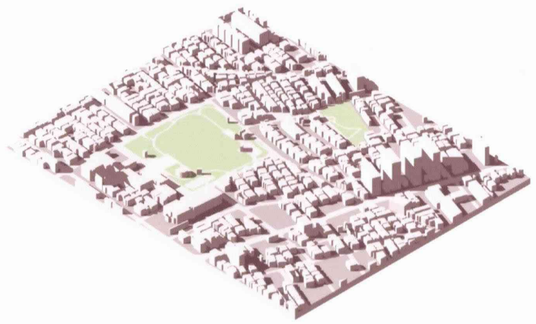


コンセプトダイアグラム

concept

現状の多くの集合住宅は街 - オープンスペース - 住戸と関係は単純化されている。
しかし、住戸数の多い集合住宅では、オープンスペースは参加人数の増加とともにパブリック性の強いものとなってしまう。
集合して住む住戸数が多い集合住宅では街と住戸のつなぎ目をより分節化し、段階的に場のヒエラルキーを計画していくべきだと考えます。
段階的なスペースを作っていくことによって、共有スペースのスペースの大きさ、その場に対応した、参加人数が規定され、場の性質と対応した行為の誘発を促し、共有スペースの利用、コミュニティ形成の誘発ができるのではないかと考えます。

SITE　計画敷地：東京都府中市の低層住宅専用地域の敷地面積 9200 ㎡の敷地。南北を公園に東西を戸建て住宅に囲われている敷地。
このアイランド型の敷地に対して各住戸のプライバシーを保持しながらも、地域をつなぎあわせる役割を持てるように計画をしていきたい。



敷地 3D アイソメ

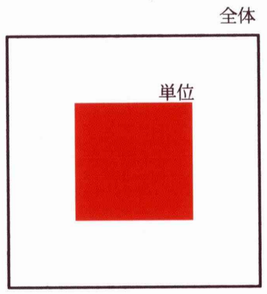
敷地 3D 鳥瞰

住所：東京都府中市幸丁二丁目
住戸数：96
他：集会所　広場

用途地域：第一種低層住居専用地域
敷地面積 9200 ㎡
建蔽率：50%(27%)
容積率：100%(72%)

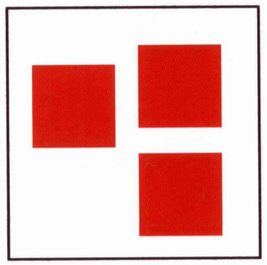
構成手法：纏まりの形成

1



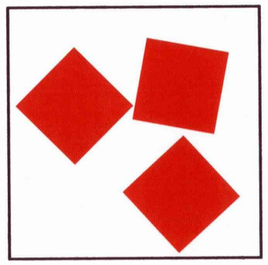
いり子の関係

2



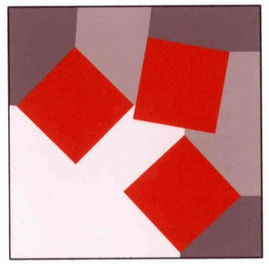
単位を複数化する。

3



単位を回転させ、全体を二つに分ける

4



3のスペース

2のスペース

1のスペース

全体の空間を単位が分割する。

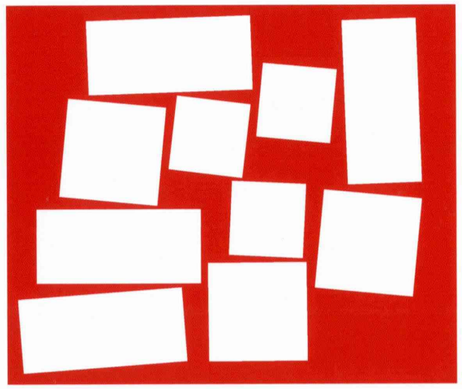
纏まり平面図

3のスペース

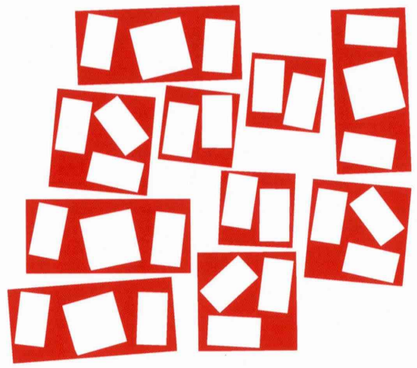
2のスペース

1のスペース

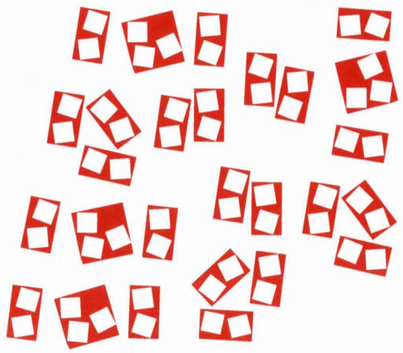
段階的に適応していく



纏まり 1

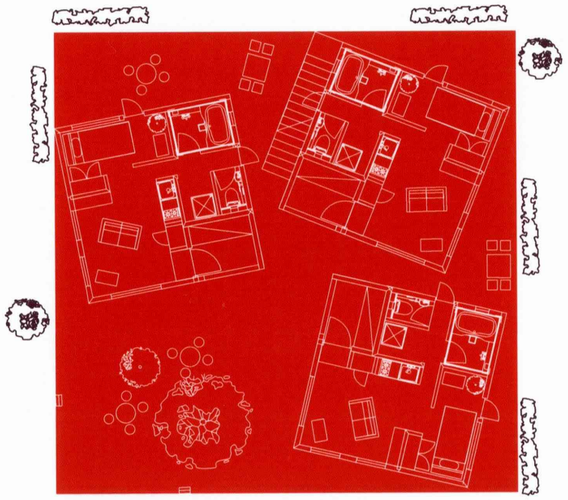


纏まり 2



纏まり 3

空間の分節方法



400mm のレベル差

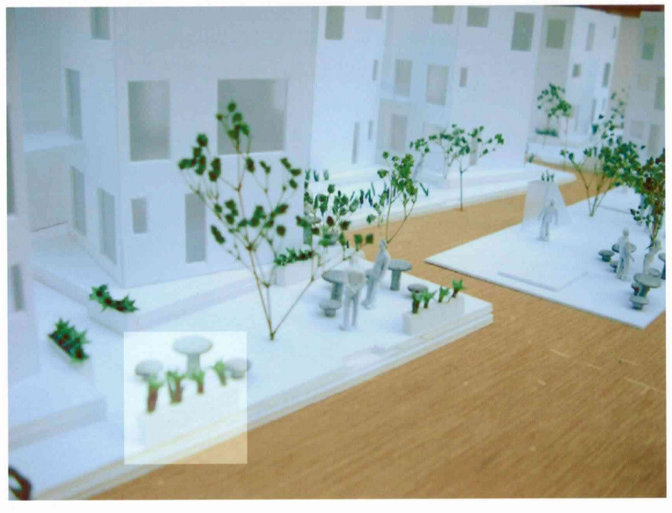
動線の操作　視線の高さの違い

植栽

視線と動線制限　場の中心

プランター

動線の制限



ユニットパターン

1F: 高齢者、若年者向けワンルーム
2F,3F: ファミリータイプ - メゾネット
- メゾネット＋2R

住戸の関係性

プライバシーのレベルが最も高いベットルームは動線や視線を外部から制限し、さらに G.L から 1400mm 高い位置にフロアレベルとる。

アプローチ動線上に計画されるコモン

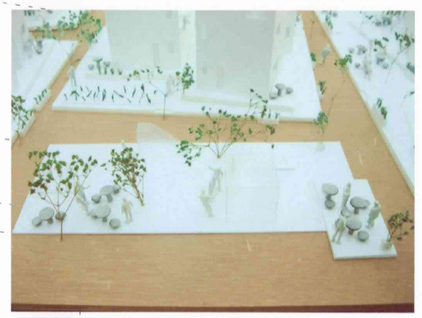
1階平面図

1

街に面するパブリックスペース（一階には一般利用可のレンタルスペースやオープンカフェ。二階にはコミュニティホールや住人専用のレンタルスペース）

2

街から１段階奥まったオープンスペース。
公園や、子供の遊ぶスペースとなる。
一般人も入り込める。

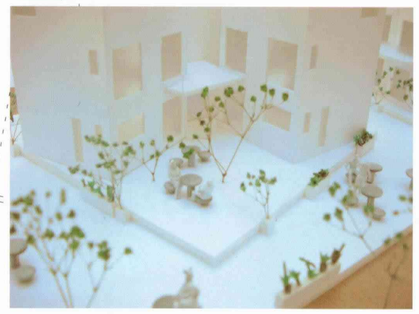


3

４～７住戸ヴォリュームのパブリックスペース
テーブルや椅子が配置され、中規模のコミュニティ誘発スペースとなる。
接したアプローチ部分やオープンスペースとコネクトする。

4

２～３住戸ヴォリュームのパブリックスペース
共同エントランスとなる。
二階の渡り廊下の下に位置して雨をしのげる。

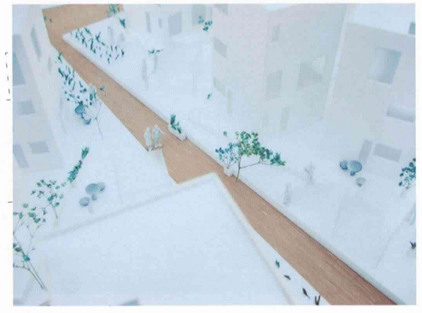


1 階平面図

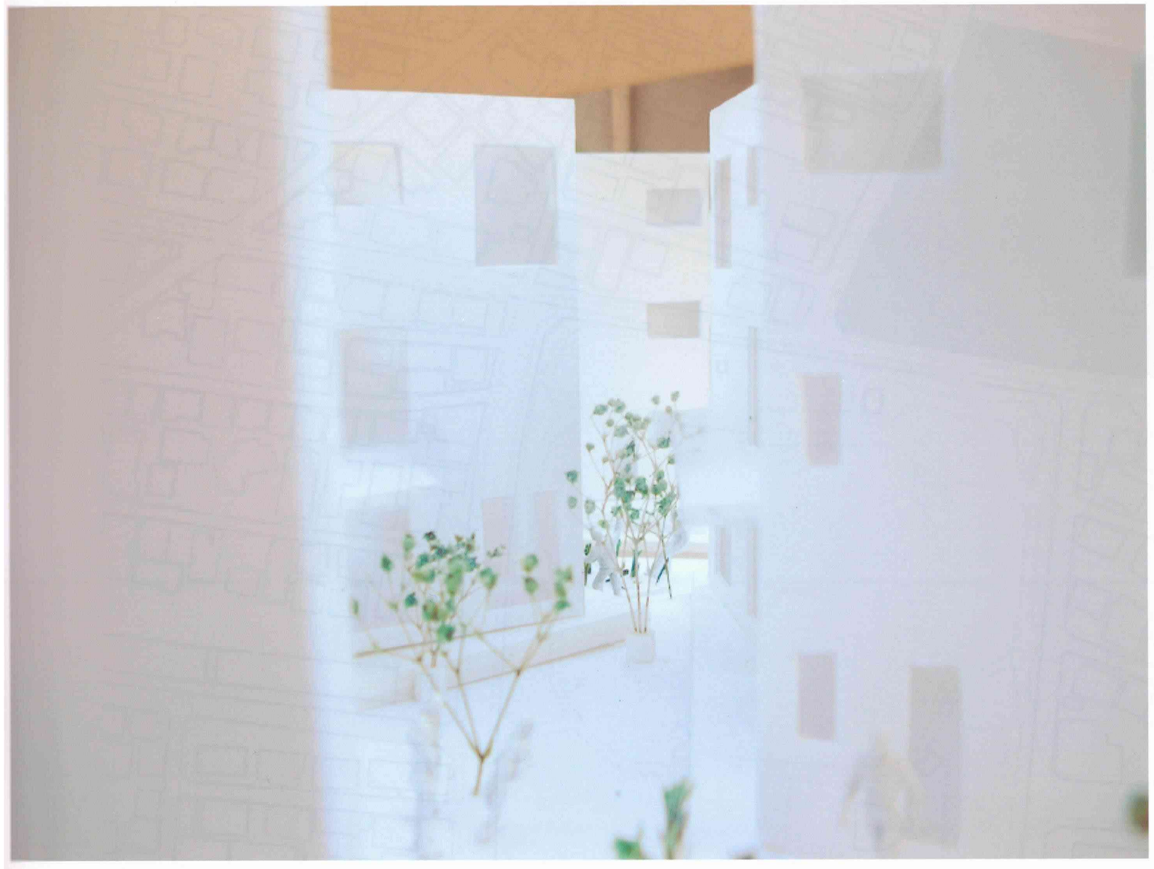
1 主要動線外にあるパブリックスペース。
周辺のコモンとのバッファーの役割を果す。

2 主要動線外にあるパブリックスペース。
周辺のコモンとのバッファーの役割を果す。
周辺の公園とコネクトする。

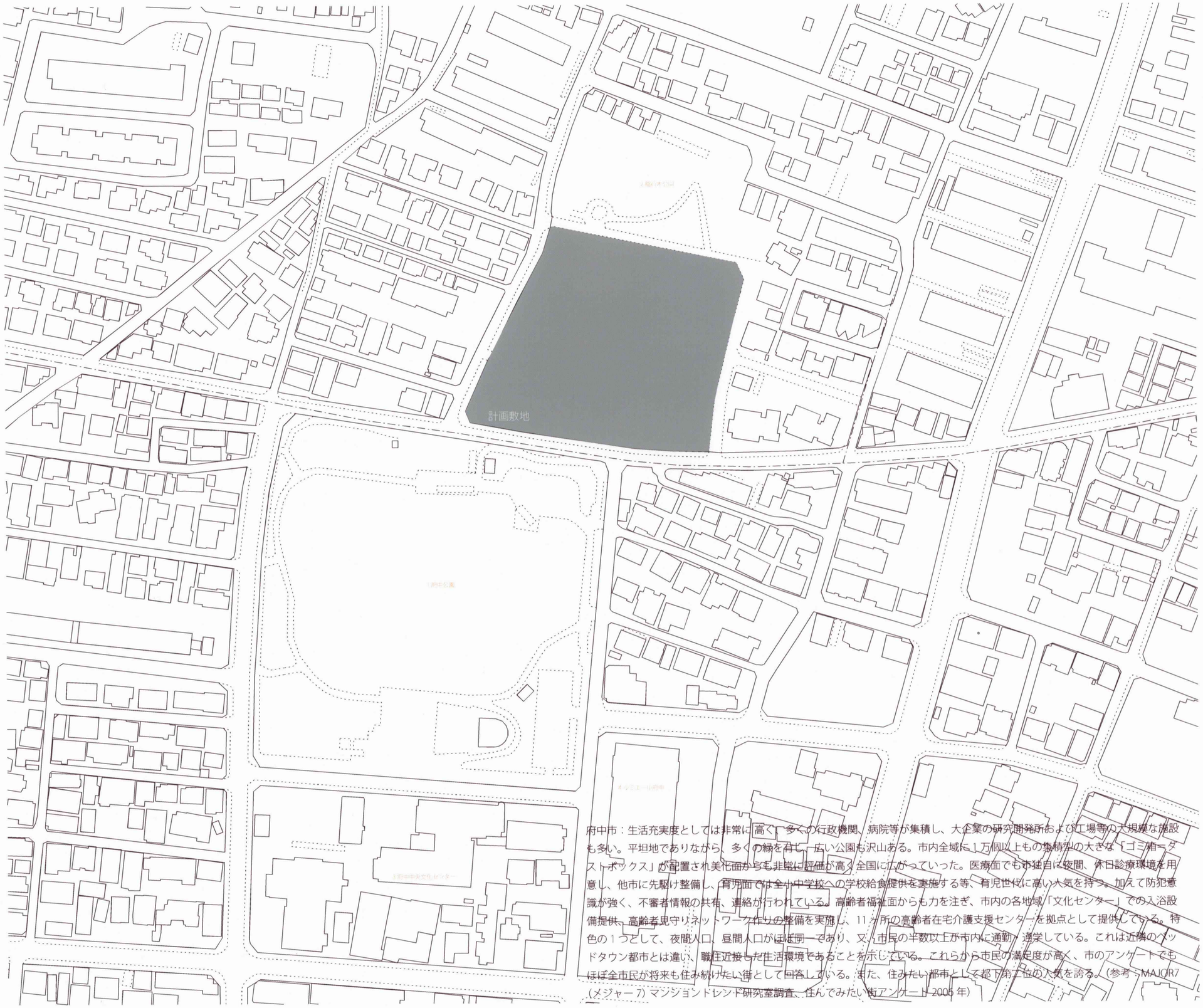
3 4～7住戸ヴォリュームのコモンスペース
遊具がある。
一般開放された公園スペースより、閉鎖性が強い。



4 4～7住戸ヴォリュームのコモンスペース
共有の畑がある。
洗濯物を干したり、各住戸の行為の溢れ出しのスペース。



共有スペースの性質・行為は街から住戸に至るまで段階的に変化する。プライバシー性とパブリック性の共存する集合住宅。



府中市：生活充実度としては非常に高く、多くの行政機関、病院等が集積し、大企業の研究開発所および工場等の大規模な施設も多い。平坦地でありながら、多くの緑を有し、広い公園も沢山ある。市内全域に１万個以上もの集積型の大きな「ゴミ箱ーダストボックス」が配置され美化面からも非常に評価が高く全国に広がっていった。医療面でも独自に夜間、休日診療環境を用意し、他市に先駆け整備し、育児面では全小中学校への学校給食提供を実施する等、育児世代に高い人気を持つ。加えて防犯意識が強く、不審者情報の共有、連絡が行われている。高齢者福祉面からも力を注ぎ、市内の各地域「文化センター」での入浴設備提供、高齢者見守りネットワーク作りの整備を実施し、11ヶ所の高齢者在宅介護支援センターを拠点として提供している。特色の１つとして、夜間人口、昼間人口がほぼ同一であり、又、市民の半数以上が市内に通勤／通学している。これは近隣のベッドタウン都市とは違い、職住近接した生活環境であることを示している。これらから市民の満足度が高く、市のアンケートでもほぼ全市民が将来も住み続けたい街として回答している。また、住みたい都市として都下第７位の人気を誇る。（参考：MAJOR7（メジャー７）マンションドレンド研究室調査、住んでみたい街アンケート2005年）

府中公園

2 稲荷木公園

3 府中中央文化センター

4 ルミエール府中

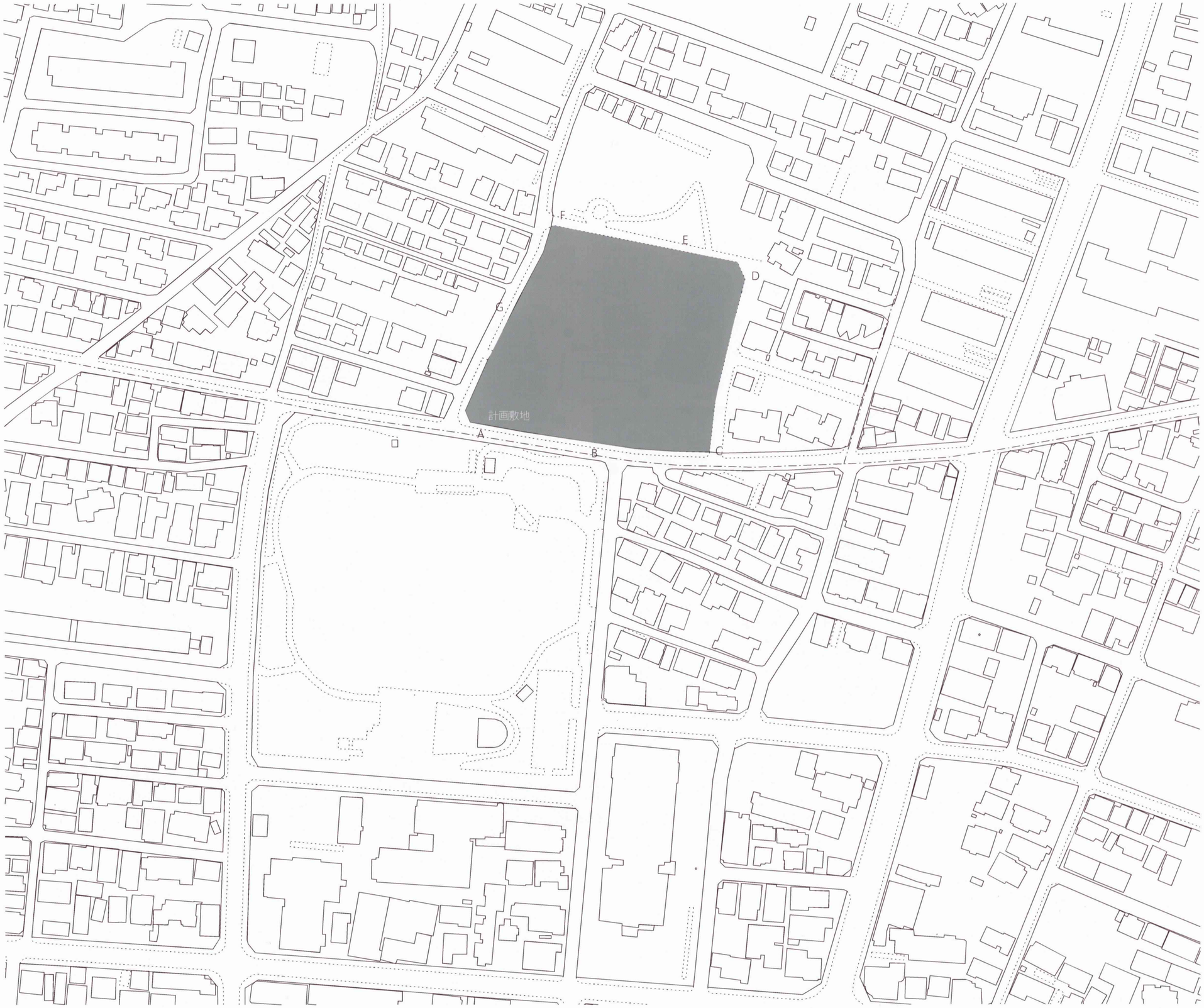
5 府中市民医療センター

6 桶久保公園

7 駅前周辺

8 ケヤキ並木通り

9 富士見通り



A

B

C

D

E

F

G

住所：府中市幸丁二丁目
住戸数：96
駐車スペース：60 台
他：集会所　広場

用途地域：第一種低層住居専用地域
建蔽率：50%
容積率：100%

1階住戸

groupAEFG
1R:4戸
1R+1:3戸

groupBIJM
1R:3戸
1R+1:3戸

groupCDHKL
1R:2戸
1R+1:2戸

1階施設

public1
オープンテラス
カフェショップスペース
レンタルスペース(一般利用可)

public2
レンタルスペース(一般利用可)

public3
オープンテラス
カフェショップスペース
レンタルスペース(一般利用可)

public4
オープンテラス
カフェショップスペース

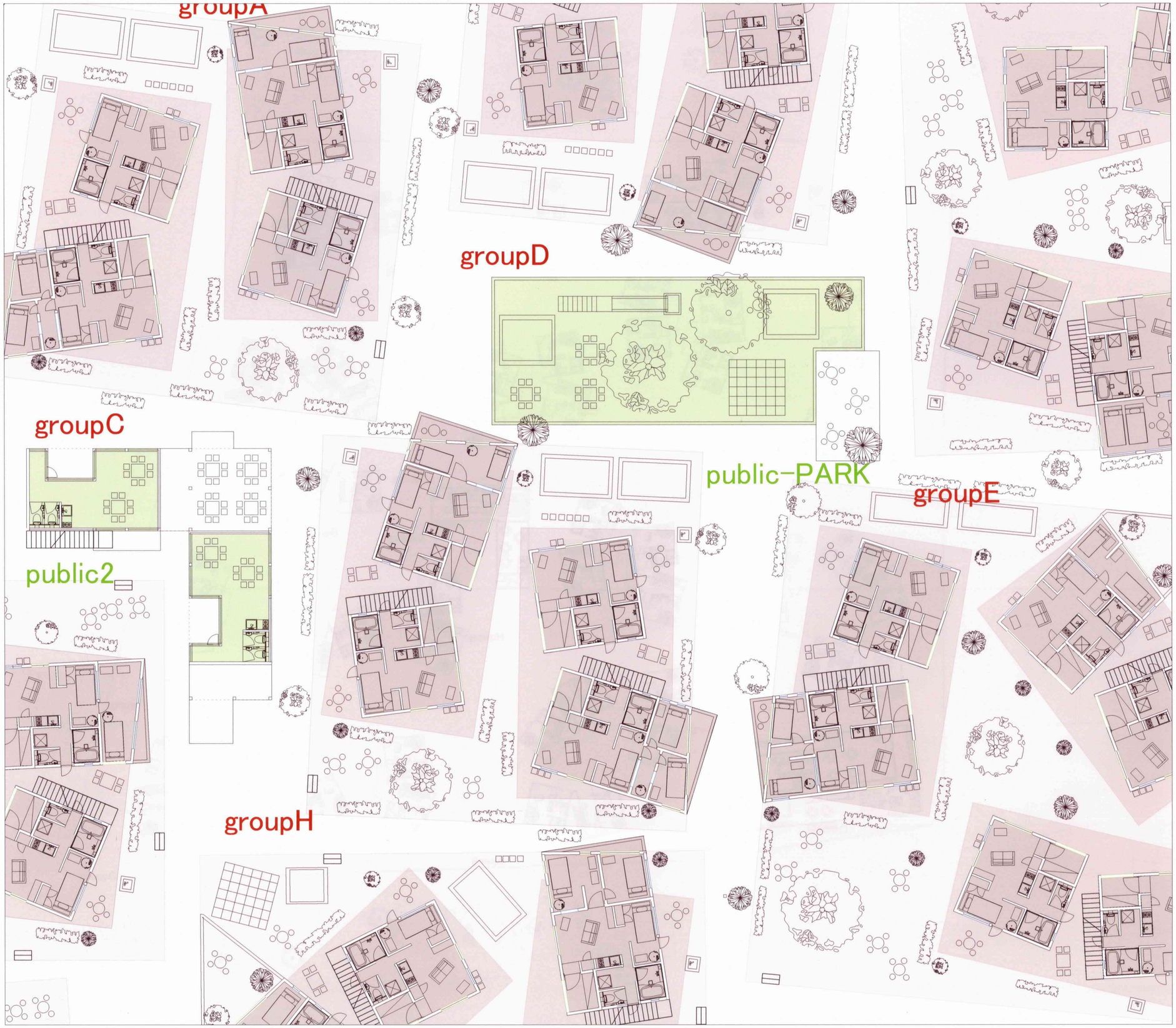
public-PARK
テラス
砂場
遊具

G.L
G.L+600
G.L+1000
G.L+1200
G.L+200(共有施設)
0-2000開口部
1000-2000開口部
0-2500壁もしくは柱

PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：48.8%
容積率：75%

全体1階平面図　s:1/500



PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：48.8%
容積率：75%

全体1階平面図　s:1/500

2階住戸

groupAEFG
2Kメゾネット:4戸
1R+2:3戸

groupBIJM
2Kメゾネット3戸
1R+2:3戸

groupCDH
2Kメゾネット:2戸
1R+2:2戸

2階施設

public1
コミュニティホール

public2
レンタルスペース(入居者専用)

public3
コミュニティホール
レンタルスペース(入居者専用)

0-2000開口部
1000-2000開口部
0-2500壁もしくは柱

所在地：東京都府中市
建蔽率：40.8%
容積率：75%

PLAN

全体2階平面図　s:1/500

PLAN

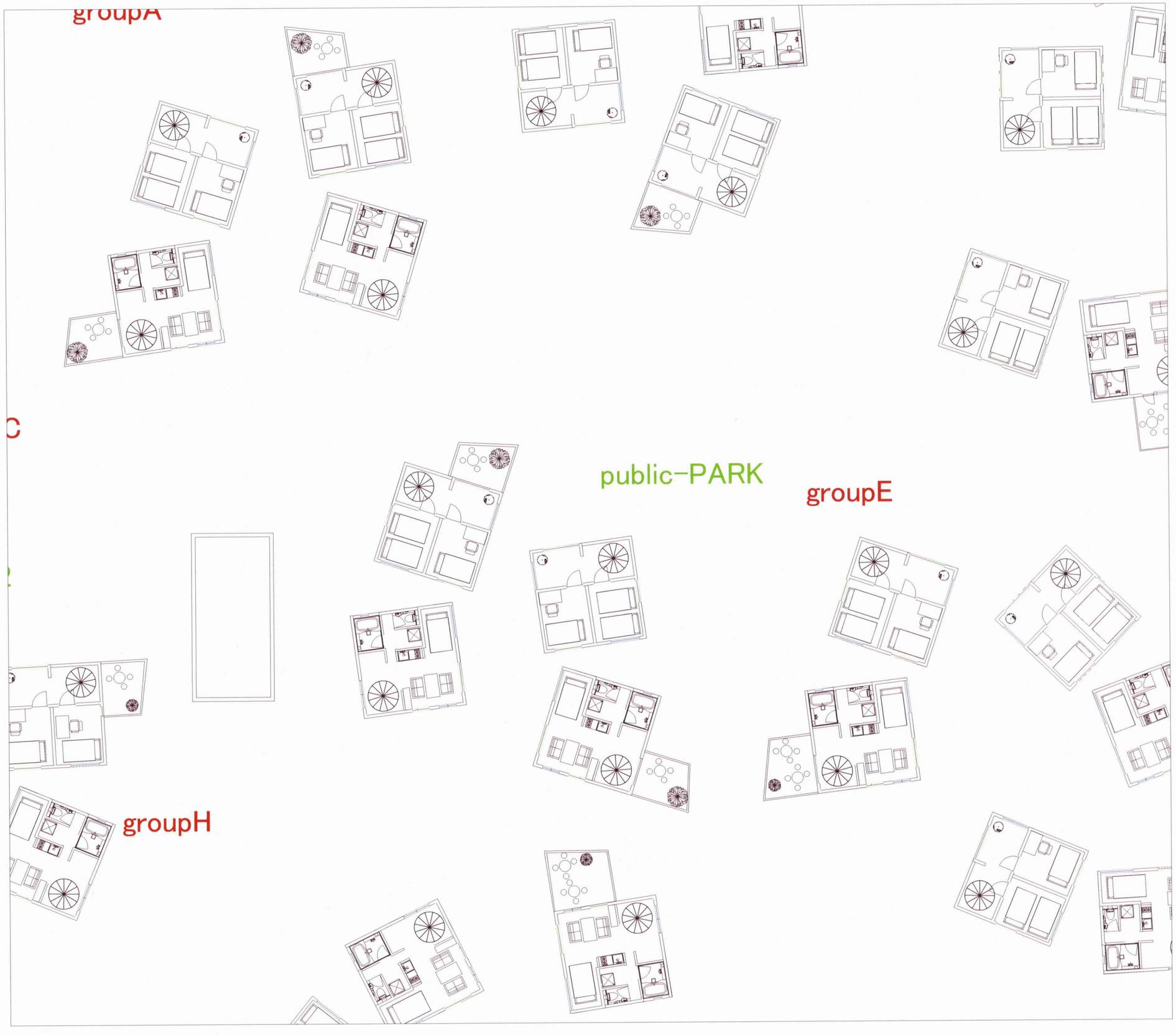
所在地：東京都府中市
建蔽率：48.6%
容積率：75%

全体1階平面図　s:1/500

PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：49.8%
容積率：75%

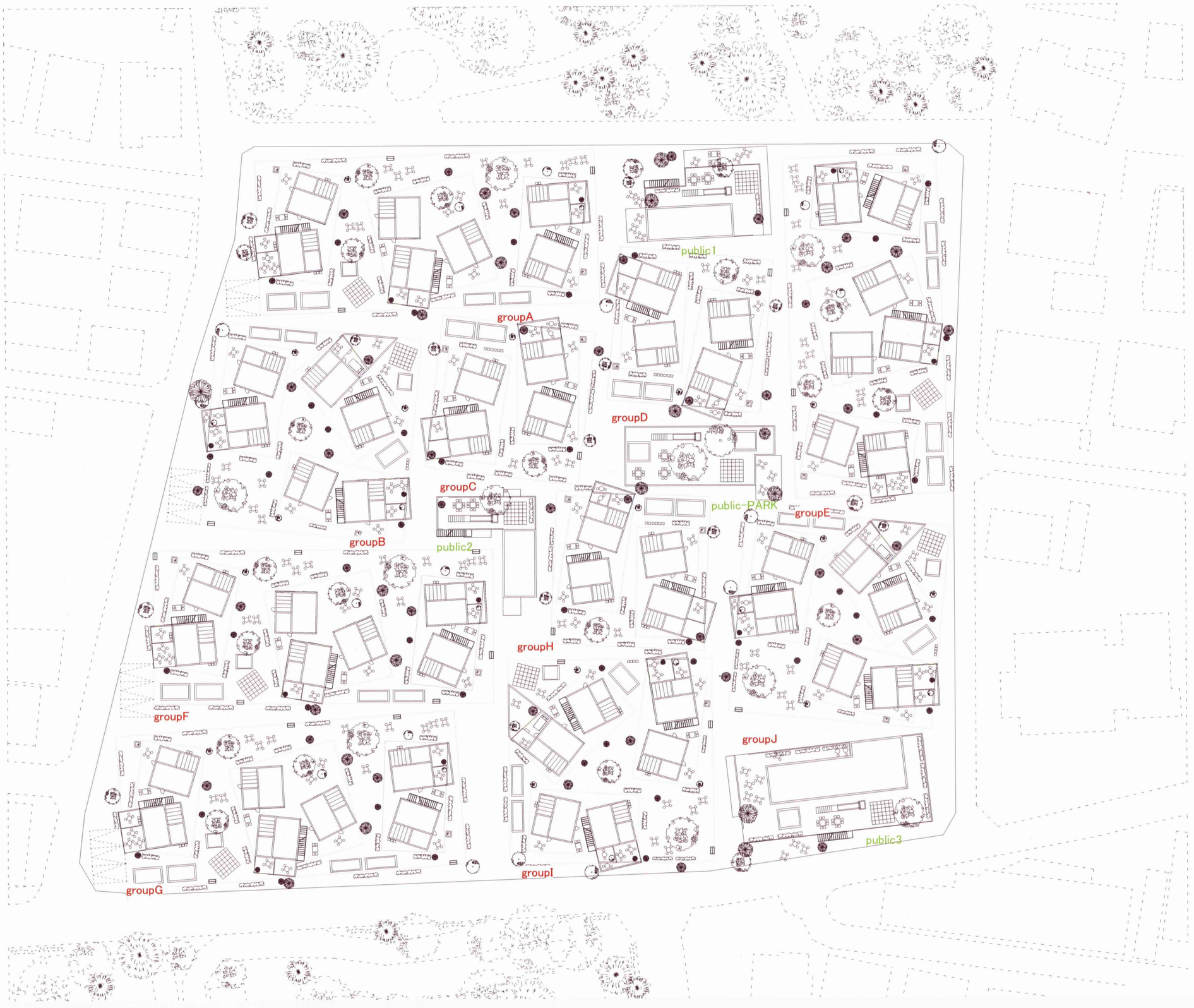
全体3階平面図　s:1/500



PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：48.8%
容積率：75%

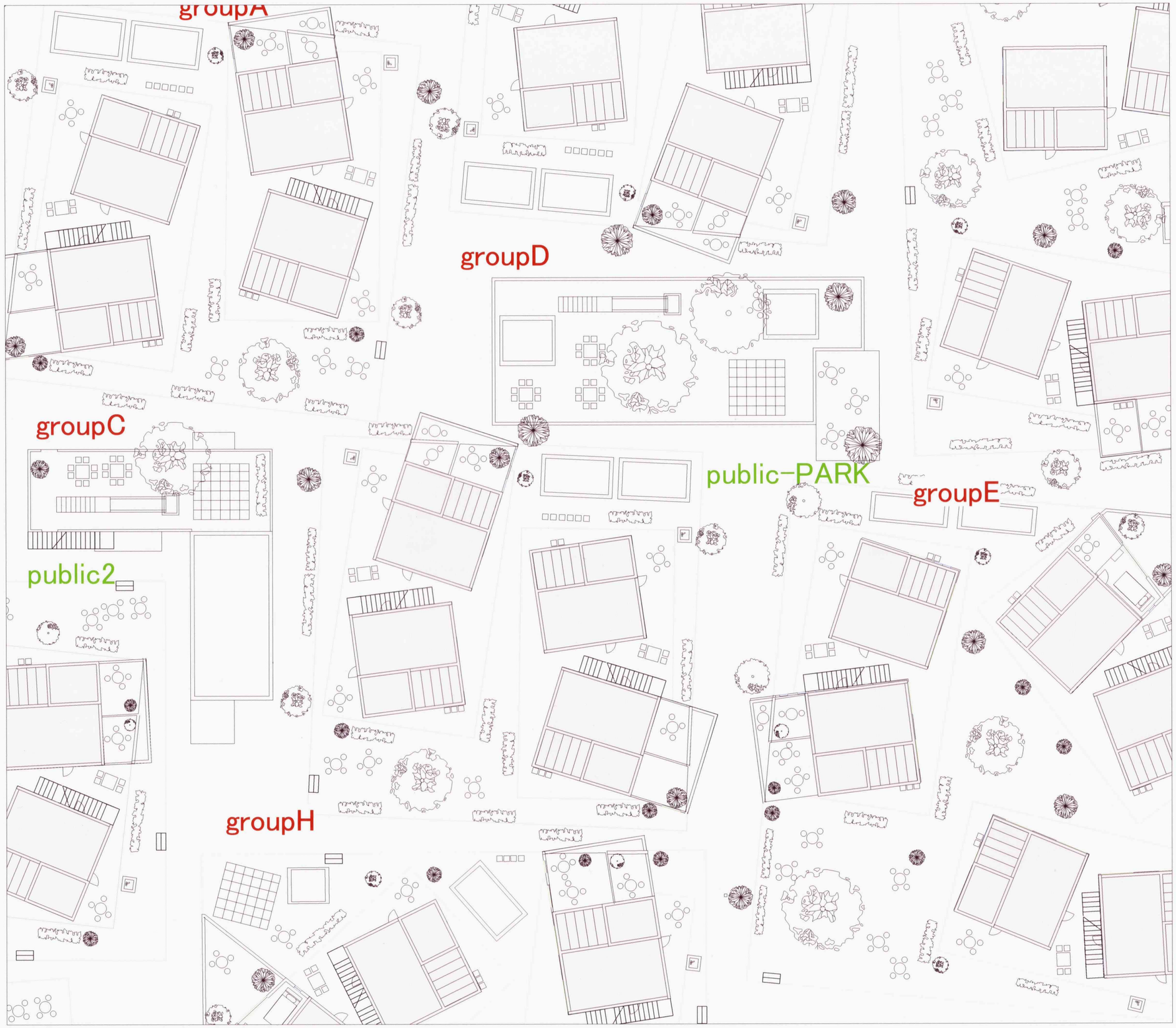
全体1階平面図　s:1/500



PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：48.6%
容積率：75%

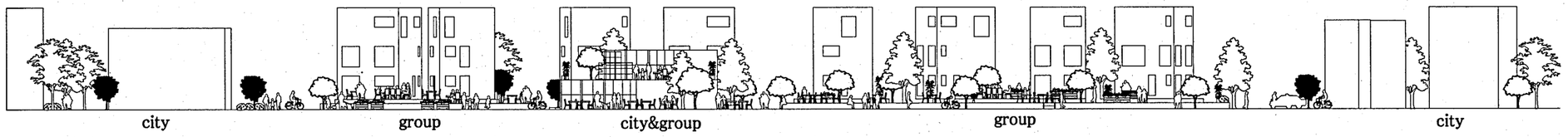
全体屋根伏図　s:1/500

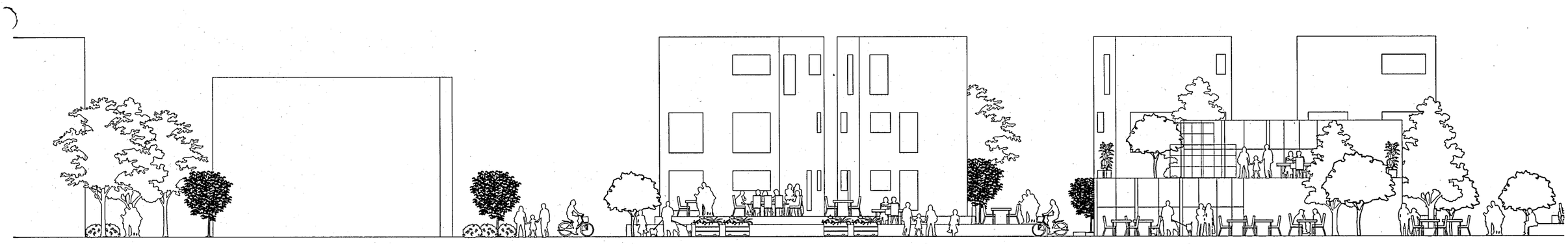


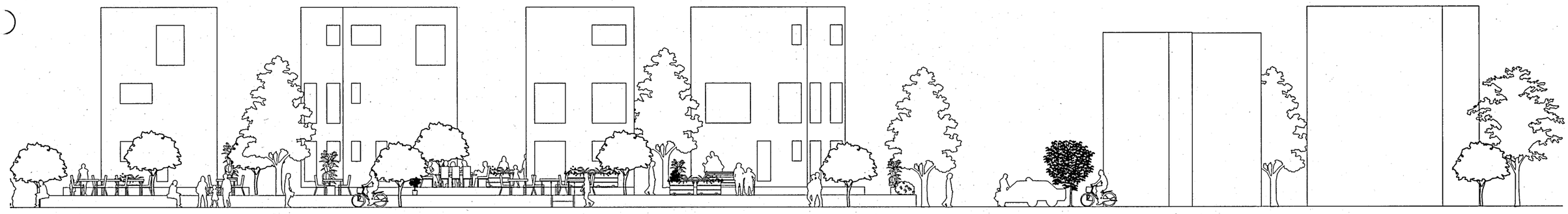
PLAN

所在地：東京都府中市
建蔽率：46.8%
容積率：75%

全体1階平面図　s:1/500

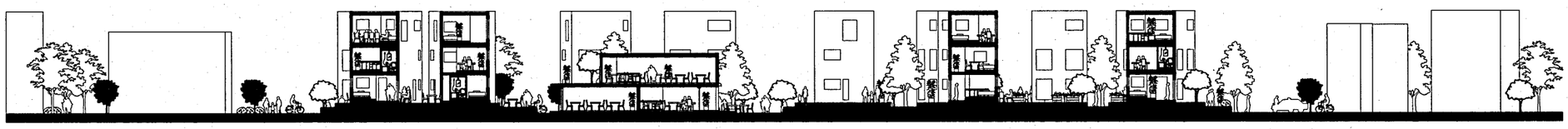


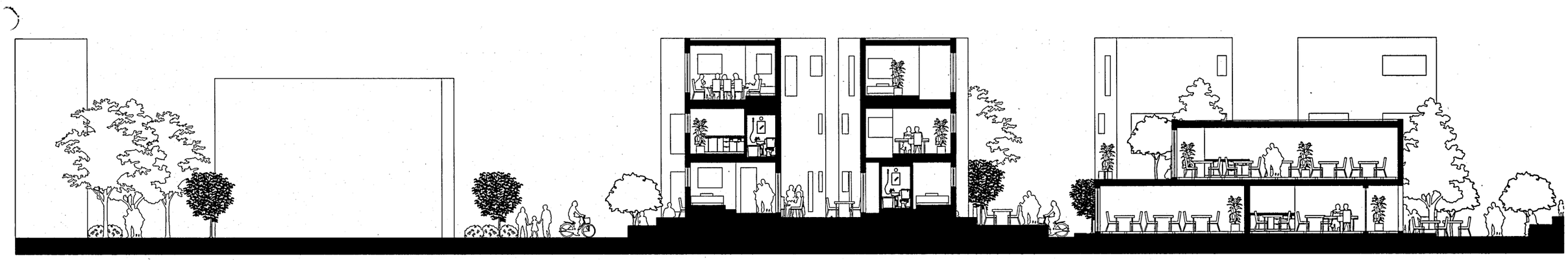




ELEVATION

立面图 1:500 1:200





SECTION

縮尺 1:500・1:200

CHAPTER 3-1: 参考文献

CHAPTER 3-2: 謝辞

CHAPTER 3-1: 参考文献

『設計資料集成 - 居住』日本建築学会
『変わる家族と変わる住まい』彰国社
『日本の現代住宅』TOTO 出版
『ルイス・カーン研究』前田忠直
『パタン・ランゲージ』C. アレグザンダー
『現代集合住宅のデザイン』：彰国社
『建築意匠講義』香山壽夫著　東京大学出版会
『集合住宅をユニットから考える』渡辺真理＋木下庸子：新建築社
『日常の詩学』坂本一成：TOTO 出版
『houses』坂本一成：新建築社

CHAPTER 3-2: 謝辞

修士設計に取り組むに当たって、まず私自身の勉強不足を感じました。
学部生時以来の集合住宅の設計は、とても勉強になったと思います。
中間発表から提案は日を追うごとに変更を続け、常に模索の最中という状況が続きました。そんな中、ご指導ご指摘して頂いた先生方には大変感謝しております。
また、手伝ってくれた後輩の皆さん、エスキスをしてくださった先輩、そして、6年間大学に通わせてくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。